

汚染魚かなり減る

水俣湾内の有機水銀

◇水俣住民の毛髪中の総水銀

総水銀 PPM		1~4	5~9	10~14	15~19	20以上	計
一般市民	15歳以上	11	41	16			68
	14歳以下	1	6	3	1		10
	計	12	47	19	1		79人
漁民と家族	15歳以上	8	25	6	5	4	48
	14歳以下	2	1				3
	計	19	31	6	5	4	65人

調査結果について入鹿山教授は「昨年五月にチツソのアセトアルデヒド工場が閉鎖され、また同三月に化ヒニール工場の廃液も新八幡プールに貯留して海に出さないようにしたため、湾内の水銀量が減ったものと思われるが、これら

県公署は、水俣病の原因となつた有機水銀が水俣湾にまだどの程度残っているかを調べるため、熊大医学部の入鹿山且朗教授、衛生学Ⅰに同湾内の魚類と水俣市民の毛髪中の水銀量の検査を依頼していたが、その結果が五日まとまった。それによると、水銀量は過去に比べて相当減っており、厚生省が昨年八月に出した「水銀による環境汚染の暫定対策要領」で示した基準を下回っている。しかし他の海域の魚よりも含有量が多く、また一般市民よりも漁民の方が毛髪の水銀がせいぜんと多いという結果が出た。

厚生省基準下回る

毛髪はまた漁民の方が

熊大調査



県の藤本企画、伊藤衛生岡部長（後ろ向き）に申し入れる馬場県総評議長（中央）ら代表

の措置をとられる以前に排水された水銀がまだ湾内に残っているわけだと説明している。さらに湾内の魚を煮ても安全かどうかという問題については「厚生省の基準以下だから大丈夫だとは思いますが、一〇〇パーセント出たため実施されたもので、魚類

の措置をとられる以前に排水された水銀がまだ湾内に残っているわけだと説明している。さらに湾内の魚を煮ても安全かどうかという問題については「厚生省の基準以下だから大丈夫だとは思いますが、一〇〇パーセント出たため実施されたもので、魚類

は昨年十一月に採取された五十六尾について、また水俣市民の毛髪検査は昨年の十月と十一月に百四十四人を対象に実施された。魚類はキス、クサビ、タイ、カワハギ、タコ、ガラカブ、アジ、コノシロ、フグ、チヌ、ボラ、ウナギの十二種類で、五十六尾のうちフグ一尾から総水銀で一・一四六PPMが検出されたほかはいずれも一PPM以下で、最低はコノ

シロの〇・〇九三PPMだった。総水銀中のメチル水銀と有機水銀は、最高がガラカブの〇・二七八PPM、最低がボラの〇・〇〇一PPMとなつている。厚生省の基準では、総水銀で一PPM以下のものが検査対象の二〇パーセント以下、合格という

ことになっており、この基準からすれば水俣湾の場合は十分合格圏内にあるといえる。過去の調査では、たとえば昭和三十六年には総水銀でカマスから五八PPM、コハダから三・一PPMが検出されており、それが翌年減少して昨年の五月にはガラカブ二・二PPM、キス〇・六PPMだった、このような過去の調査結果に比べれば、今回の調査結果からは相当にいい答えが出たといえる。

しかしそれにしても、他の海域に比べると、水俣湾の魚はまだ水銀含有量が多い。入鹿山教授は今年の四月、水銀汚染がないとみられる天草郡大矢野島の近海のチヌを採取して検査したが、このチヌは総水銀で最高〇・三三三PPM、最低〇・〇五七PPMだった。十一月に水俣湾でとれたチヌからは最高〇・四八二PPM、最低〇・二三七PPMが検出されている。毛髪中の水銀調査は、一般市民（チツソ従業員と水俣市役所職員が中心）七十九人と漁民（家族を含む）六十五人が調査対象となつ

た。その結果、一般市民には総水

とされている。

銀で一五PPM以上の人は一人しかいなかったが、漁民では一五一九PPMが五人、二〇PPM以上が四人もいた。

一般市民よりも魚を食べる機会が多い漁民の方が明らかに水銀含有量が多いわけで、特に漁民の一人からは七三・七九PPMが検出された。この人は再調査される。

厚生省の基準では、毛髪中の総水銀が二〇PPM以下ならばよい